

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山市立楠見西小学校	庄禮 浩志
学校所在地		
〒 640 - 8464 tel 073(452)7455 fax 073(452)7464 e-mail		
担当者名	担当教科	
西浦 正也	4年担任	
〔学校の概要〕		
<p>本校は和歌山市の北部、和泉山脈の南麓に位置し、山並みがすぐ近くにせまり、山の緑が映え自然に恵まれ環境はとても良い。昭和40年代後半から宅地造成に伴う人口の増加により、児童数も増大し、大規模校となった楠見西小学校を3分割した。昭和57年、楠見地区の最も西部を校区とする楠見西分校が発足、翌年、和歌山市の49番目の学校として和歌山市立楠見西小学校が開校した。校区は南北に細長く、南は福島、野崎西小学校区と西は貴志小学校区と接しており、学校はほぼこの中心にある。2001年には、駅の近くに河北コミュニティセンターがオープンし、地域の公的施設として利用されている。地域住民の職業は、商工業、公務員等サラリーマンがほとんどであるが、古くから花木の栽培が盛んで、四季を通しての花の栽培や売買、造園業等に従事する人も少なくない。現在の児童数は158名、単学級の規模である。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
中学年 4年生 30名	1名 職員1名	本校4年1組 教室
実践研究テーマ		
豊かな心と実践力のある子どもの育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間 <sup>①</sup> ごみと住みよい暮らし <small>②和歌山県ってすごいぞ! ③障がい者理解</small>	和歌山県ってすごいぞ!	
〔キーワード〕		
県の自然・文化・産業 世界遺産学習 心のバリア		
〔単元目標〕		
<p>(1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。</p> <p>(2) 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができる。</p> <p>○様々な人と触れ合うことにより、心のバリアを取り除き、互いに認め合う、尊重し合う態度を身に着ける。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 30 時間 （「和歌山県ってすごいぞ!」 10時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
<p>(1) 和歌山市保健所生活保健課・・・「わうくらす」での命の大切さ、生き物を飼う責任等についての学習</p> <p>(2) 和歌山市市民環境局 環境部 一般廃棄物課・・・ごみ処理の現状と3Rの推進についての出前授業</p> <p>(3) 和歌山市青岸クリーンセンター・・・循環型社会に向けたごみの減量とリサイクル、ごみの現状について処理施設の見学</p> <p>(4) 和歌山県世界遺産センター・・・世界遺産入門（出前授業）次世代育成事業（現地学習）</p> <p>(5) 和歌山市教育委員会 学校教育課・・・「人権教室」（予定）</p>		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1・2 和歌山市について調べよう。 自分の伝えたいテーマを決める。	・和歌山市の歴史や文化、自然、人々の生活について、和歌山市の知らなかったことについてまとめる。	ワークシート ノート
2	3・4 和歌山市以外の市町村について調べよう。	・和歌山市以外の市町村は県内にどれだけあるのか調べ、まとめる。	ワークシート ノート
3	5・6 世界遺産について知ろう。 (出前授業・現地学習)	・世界遺産についての図書、教材を教室におく。 ・和歌山県世界遺産センターを訪ね、世界遺産について学習するとともに、参詣道の道普請を行う。	観察 ワークシート
4	7・8 自分の伝えたいことを調べ、まとめよう。	・他教科、領域での既習経験を生かし、目的に応じて、必要な資料を選び、調べる方法を考え出す。	観察 ワークシート
5	9・10 新聞にまとめよう。	・国語科「新聞を作ろう」と関連させる。 ・社会科「和歌山県の特徴」と関連させる。	新聞
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>成果</p> <p>地域の学習を通して、子ども達は今まで知らなかったもの・こととの出会いで和歌山県に対する興味関心が高まった。自分たちの住んでいる地域には世界に誇れるものがあるという、郷土に対する思いが子どもたちに生まれた。他教科との関連をさせながら学習を進めることで、各教科の学習の必要性を子どもたちに体感させることができた。</p> <p>課題</p> <p>世界遺産というテーマの学習では、歴史学習を行っていない4年生にとっては少し難しい。語句等の調べ学習の時間も必要になってくる。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>子どもたちは、道普請を一生懸命行った。自分たちが世界遺産の保全活動に関わることができたという体験は、子ども達にとって非常に意義のある体験であった。そして、自分たちの住んでいる身近な地域から、世界を感じる事ができた。また、先人の残してきてくれた遺産を守っていくために、多くの人たちが互いに協力し、様々な取り組みを行っていることを知ることができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>世界遺産マスターの方のお話で、どのようなことを子どもたちに話をしてほしいかなど、事前の打ち合わせができればよかった。</p> <p>4年生にとっては、難しい話もあるかもしれないが、実際に現地に出向いて見て、感じることで「和歌山にある良さ」を知ることができたのは大きい。今回子どもたちが経験したことを通して、自分や地域を大切にすると同時に、他者や様々な地域、ものを大切に、互いに尊重し合えるようになってくれることを願っている。</p>			

## 様式 2

平成30年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

教科書で学ぶだけでなく、実際に現地を訪問し、世界遺産を体感することができた。

道普請の体験で、世界遺産の保護活動に参加した。普段、消極的な子も積極的に関わろうとする姿が見られた。

校内玄関掲示の作品で、高野山をテーマに図画工作科で取り組んだ。